

令和3年度第1回基山町まち・ひと・しごと創生推進会議

(議事録)

日 時：令和3年8月18日(水) 10時00分～11時50分

場 所：基山町役場 4階大会議室

出席委員：12人

森田昌嗣 会長、末吉正夫 委員、田口英信 委員、原憲一 委員、
日高紀子 委員、佐藤二三男 委員(代理：砂入成章)、堀岡真也 委員、
山下敦史 委員、眞子義孝 委員、中富稔久 委員、山口信善 委員、
酒井英良委員

欠席委員：2人

平瀬有人 副会長、田中光一 委員

事務局：3人

総務企画課：熊本課長、下川係長、竹田主査

関係部署：14人

財政課：平野課長、こども課：亀山課長・佐藤参事、福祉課：吉田課長・中牟
田参事、健康増進課：藤田課長、定住促進課：山田課長、住民課：毛利課長、
建設課：古賀課長、産業振興課：柳島課長・山本参事、まちづくり課：井上課
長・城本参事、教育学習課：今泉課長

傍聴者：0人

1 開会

2 町長あいさつ

3 委員の委嘱

4 会長及び副会長の選出

5 議事

(1) 第2期基山町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況及び事業評価について

(2) その他

事務局進行

1 開会

2 町長あいさつ

省略

3 委員の委嘱

町長から委嘱

4 会長及び副会長の選出

会長に森田昌嗣 委員、副会長に平瀬有人 委員を選出。

5 議事

(1) 第2期基山町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況及び事業評価について
【基本目標①】「基山町への新しい「しごと」の流れをつくる」

○事務局から説明

○質疑応答等

<プロジェクト①「トカイナカ産業振興プロジェクト」>

・(山口委員) 想定する事業①六次産業化推進事業について説明をお願いしたい。

(事務局等) 産業振興の補助金として創業支援の奨励金を町から出している。産業振興補助金の支援により「工房峰山」が創業し地元食材を使用したジャムが開発された。また、ジビエ肉を活用した新商品開発やコンテナハウス「狩人食卓(かりびとキッチン)」の創業がみられた。その結果、イノシシ肉の活用が図られるようになり、廃棄していたイノシシの骨等も商品として使われる業者が見つかり、少しずつ骨についても販売ができるようになってきている。

(山口委員) 地元食材とはどういったものを使っているのか。

(事務局等) 地元食材としては、みかんや柿、ぶどう、キウイ等の果樹や野菜が材料として使われている。

(中富委員) イノシシの骨の商品化とはどのようなものか。

(事務局等) イノシシの骨はペット用のガムに加工されていると聞いている。

(堀岡委員) 補助金は令和2年度のみか。

(事務局等) 産業振興の補助金については、1事業者1回限りにしているため工房峰山への補助金は令和2年度のみである。

・(眞子委員) 4. 今後のプロジェクトの方向性の④に「商店街を物品販売や飲食の場だけに留まらず、イベント開催を定着させることで誘客を図り、魅力あるまちなか資源として有効活用を推進する。」と記載されているがイベント開催の具体的な施策によるどのような効果・期待をどの程度目指しているのか教えてほしい。

(事務局等) 商店街におけるイベント開催については商店街にぎわいづくり事業ということで、基山町商工会に業務委託をしている。令和2年度はコロナ禍で人をたくさん集めてイベントをすることが難しい年だった。その中でも工夫を凝らしていただき、年間3件のイベントを実施することができた。効果としてはこれまで基山町の商店街の中を見たことがなかったという方に来ていただき、基山町で行っていたプレミアム商品券などを使っていただくことで町の商店街を知っていただくきっかけにもなったと考えている。

(町長) リーフという業務用のケーキ屋さんを誰も知らなかったが、イベントを受け、町民の中で結構有名になってきている。もしリーフというケーキ屋さんが思い当たらない方はあまりイベントに行っていないということになるので、是非行ってほしい。リーフは普段はホテル等にケーキを卸しているが、コロナ禍で喫茶店やホテルに卸していたものをモール商店街の中で比較的安価で販売している。こういったものは、まさにイベントがあったからこそその効果だと考えている。

(田口委員) 商工会としてもイベントを行い、集客を寄せるというのは当然の施策である。これがあるからこそにぎわいができる。そういう意味で、にぎわい商店支援を引き続きやらしてもらっている。しかしコロナ禍の中で人を集めて賛同が得られるのかという話になると、今の時代は逆である。そのため、やりたくてもやれず、しかし、やらないままでは人が誰もいなくなり商店も疲弊する。緊急事態宣言区域に福岡県も入るので、佐賀県も時間短縮が始まる。そう意味での町の活気をどうやって保つかという所が今後の課題になる。きのくに祭りも中止をせざるをえなかったが、来年度がどうなるかはまだ未定であるが、秋以降に向けてコロナが落ち着けば、にぎわいを保てるようなイベントを企画し始めている。そういうものが火種となればいいと思う。ただ、人・モノ・金が当然のごとく付きまってくるので、その部分をいかに回収していくか、補助金を基山町からいただき、企業からも支援をいただくということで、きのくに祭りも行われていたが、この御時勢になると企業や商店等の疲弊しきっているところに支援を依頼することは無理である。そのため、町の支援は欠かせないかなと思う。また、プロジェクトの中の産業振興の部分でふるさと名物市場の売上全体目標が1,500万円で今年度の目標が1,100万円。これに対して1,065万円の売上があった。令和3年度は1,210万円の目標に対してどれだけできるかというのは未定である。今の状況では大きな変化はないと考えている。産業振興協議会の会長も仰せつかっているので会議の中でも話はしているが、いかにしてふるさと名物市場の売上を上げていくかの鍵は農産物の成果品や精製品をタイムリーに卸してもらうことが前提になる。農家に持ってきていただき、それを展示し、不足があればまたお願いをするというのが常時1日の内に何回も起きる。農

家も忙しいため中々持ってこれないので販売支援員の中から誰かが取りに行く。そういう意味では人が圧倒的に不足している。商品がないと売れないため売りたいくても売れない、また買いたくても商品がきれてしまうとそこで売上が止まってしまう。人の充当や販売戦略、マネジメントを考えてうまく調達できる人材も欠かせない。是非そういった所も工夫をしていただき、よりよい形で人の充当も必要になると思う。小さいテントで販売しているので限りはあるが1,000万円の売上をあげているので、それを維持するため、あるいは目標を超えるため、そういった部分の充当が必要と考える。是非御検討いただければと思う。

(町長) 今のところ令和3年度に何をやるのかのかというと地方創生のお金を使いマスメディアを使ったシティプロモーション事業を考えており、令和2年度はKBCと組み、ふるさとWishで基山町を取り上げてもらったが、令和3年度は公募を行ったところ西鉄エージェンシーが採択となった。企画はこれからだが、どぶろっくを十二分に使い基山のPRをしていく。どぶろっくが商店を回ったりするような企画も含めて良いシティプロモーションになるようにしていきたい。中身の詰めは終わっていないが撮影が11月にあり実際の放送は1月と聞いている。新型コロナウイルス感染症が静まり、来年1月頃にはワクチンの接種も皆さん終わり、外出もできるようになっているかと思う。また、今年度も12月にふれあいフェスタという町を中心とした祭りを開催する。

<プロジェクト②「企業支援プロジェクト」>

・(原委員) 無料職業紹介所で述べ1,200人以上の来所者に対応したとあるが、現在仕事がない方が来られているのか、または転職したい方が来られているのか把握できていれば説明してほしい。コロナで厳しいときは優秀な人材を基山に呼び込むチャンスであると考えている。

(事務局等) 無料職業紹介所の年間延べの来所者数については、毎月100人を超える来所者があり、年間で集計すると1,200人を超える来所者に対応している。どういう内容で来られたかについては、無料職業紹介所で対応している職員は内容を把握しているが、今、手元に詳しい数字の内訳はない。転職を希望する方や今から職を探す方など様々な方がきっていると聞いており、雇用の契約が成立したということで今回はKPIに数値をあげている。

○審議

基本目標①「基山町への新しい「しごと」の流れをつくる」の2プロジェクトは、総合戦略のKPI達成に有効であると評価。

【基本目標②】「基山町への新たな「ひと」の流れをつくる」

○事務局から説明

○質疑応答等

<プロジェクト③「交流人口・関係人口増加プロジェクト」>

なし

<プロジェクト④「まちの集客拠点活用プロジェクト」>

なし

<プロジェクト⑤「歴史・観光資源活用プロジェクト」>

- ・(原委員) 基山町の観光や自然の歴史から言うと、蛍列車がくるように河川の綺麗さや河川に生息する動植物を守る運動を長くやってきた方がいる。そういうことが人頼りになり、歴史とともに活動家が高齢化し、河川が荒れていく姿を見てきた。秋光川は開発もあり、蛍が生息する環境ではなくなったということもあると思う。自然環境は昔よりは良くなっているがお世話をする方々がその意欲を無くしたり、倒れたりする時代になり、後継者にどのように繋いでいくのかが大変難しい問題である。どのように後継者を生み出していくのか。これまでも支援等はされてきたと思うが、人を育てるという意味からもしっかりとしたサポートが必要ではないかと思う。

○審議

基本目標②「基山町への新たな「ひと」の流れをつくる」の3プロジェクトは、総合戦略のK P I 達成に有効であると評価。

【基本目標③】「結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり」

○事務局から説明

○質疑応答等

<プロジェクト⑥「婚活応援プロジェクト」>

なし

<プロジェクト⑦「子育て支援プロジェクト」>

- ・(原委員) 病後児保育施設の利用について、課題として周知の方法等の等が何を指すのかわからない。いつ子どもの具合が悪くなるかは予想がつかない中での利用だと思う。また、利用しにくいという声を聞いたことがある。利便性が悪いという声が先行すれば電話すらしないということになると思う。改善の余地があれば周知の方法を含め努力をしていただきたいと思う。

(事務局等) 病後児保育施設は利用についてそういった御意見をいただいたこと

もある。周知の方法だが基山の広報やHPで周知をしている。昨年は公共施設等にポスターを貼って周知しているところである。昨年度が84名程度事前登録があったが、今年度は現時点で180件くらいの事前予約があるので効果はあると考えている。また、病後児保育施設の利用については、今年度から利用者にアンケートをとり確認したいと思っている。

<プロジェクト⑧「住宅環境整備プロジェクト」>

・(末吉委員) 町内の住み替え人口が多い要因を分析していたら紹介してほしい。
(事務局等) 町内の住み替え人口だが、今回のKPIは、子育て・若者世帯の住宅取得補助金を活用して元々町内のアパート等の在住者が住宅を取得した方の人数をあげている。住宅地の開発等が令和元年頃にあり、その住宅地の開発があったところに家を建てるという形で、町内在住者が補助金を活用して住宅を取得した件数が多くなったと考えている。

(末吉委員) 今後の見通し等についてどのような分析をしているか。

(事務局等) 令和2年度は住宅地の開発等があまりなかったが地区計画等が見込まれている箇所が何か所かあるため、来年度からまた増えてくるのではないかと考えている。また、基山駅近くの建設中のマンションが今年度の10月から入居予定となっており、こちらを購入した町内の方も多くいるため中心地に住み替えをする方は今年度もまだ増えるのではないかと考えている。

(山下委員) 子育て・若者世帯の住宅取得補助金の実績54件中、移住が36件で120名が基山町へ移住したとなっているが、基山町外から移住した方はどれくらいいるのか。

(事務局等) 交付実績54件中36件120名が町外から移住した方である。

(山口委員) 住み替えの補助金は新しく住宅を建てた方のみが対象になるのか。例えば基山町のアパートにいる方が、けやき台等の空家等をリフォームしながら取得をして移住する場合は対象外なのか。

(事務局等) 子育て・若者世帯の住宅取得補助金の対象は、新しく家を建てた方のみではなく、中古住宅の取得に関しても対象になる。空家を購入しリフォームして移住するのも対象になる。

○審議

基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり」の3プロジェクトは、総合戦略のKPI達成に有効であると評価。

【基本目標④】「安心と安全をベースにオール基山のまちづくり」

○事務局から説明

○質疑応答等

<プロジェクト⑨「安心と安全のまちづくりプロジェクト」>

- ・(眞子委員) 安全なまちづくり推進のためには子どもの通学の安全確保が重要だと考えている。通学路の整備が当然急務になると思うが、基山町においては通学路の整備関係について町としてどのくらい認識しているのか。整備の方針等について教えてほしい。

(事務局等) 通学路の安全の点検については、警察や教育委員会、地元の区長、PTA関係者、国道事務所に御協力いただき、この間実施した。今回8か所を点検した中で、特に交通量の多い国道3号の上町交差点から基山駅までについては一部防御柵が設置されていないところがあり、植栽はあるが大型トラックも非常に多く危険な箇所を子どもたちが歩道を通って通学しているので、早急に国道事務所に防御柵の設置の要望をして、できるだけ早く設置してもらえるように話をしているところである。他にも川の側溝の近くで防御柵がないところのうち、点検をしながら今年度に防御柵の設置をするところもある。点検場所をできる限り整備をして子どもたちが安全に通学できる形をとっている。加えて安全のまちづくり推進委員の方々や地元の区長、PTA関係者の方、警察にも登下校の見守り活動をしてもらっている。

- ・(原委員) プロジェクトの実績に区管内で訓練をしたと記載されているが、今後のプロジェクトの方向性として記載もあるように自主防災会の機能強化が一番大事なことであると思っている。行政組合外の方が基山町内でも多くなってきていると聞いている。第2区の管内でも高齢者を中心に行政組合から外れていく方がいるが、その方々が自主防災会外の方にならないかと危惧している。特に災害に対して弱い高齢者のために、自主防災会と行政組合の連動だけではない方法を考える等の何か工夫が必要だと思う。いざ発災したときに間に合わない、手が打てないという状態が出てこないかと危機感を持っている。また、道路の交通安全について、知らない土地に行ったときには自分も自動車のナビをよく利用するが、一番近いルートに設定をすると、村中を通って行って若干短い危険な道を誘導するということがある。ナビ設定だけに頼ると、道を知っている人からすると、「そんなに危ない思いをして2~300メートルを稼いでどうなるの。かえって遅くなるよ。」という道案内に頼っている人が多々見受けられる。特に通勤・通学時間になると子どもも通るので、道路交通法上は規制ができないとしても、平等寺方面では園部インターを使った方が早く安全というようなアピールをして、子どもを含めた地域の道路の交通安全が作れないかと思っている。道路交通法上は難しいと思うが、町として町道の上のバイパスに簡易の横断幕を貼る等のことで改善できるのではないかと思う。

(町長) 大規模な開発をする場合は、その開発地域で独立した組合を作って必ずその区に入ってもらおうということを徹底している。大規模ではない場合

は、まだ実施できていないが窓口の住民課で連絡先等も入れながら組合に関してのわかりやすい紙を作って、窓口での説明も改良を加えていくということを検討している。大規模開発及び進捗については、それぞれの担当課長よりフォローしていただく。ただ一番問題である高齢化して一人暮らしになって部落の役職が回ってこず、組長ができないので脱退させてくれという問題はなかなか解決策がないため、町の福祉部門と各区でまたいろいろ解決策を考えていかなければいけないと思っている。交通安全に関しては、けやき台の案内板が17号線にないので、県に設置できないかと話をしているところである。付ける場所の道路によって県や国と協議をしないといけないが、町道であればそれほど難しくないとと思う。

(事務局等) 転入者で行政区に入らない方がいるので、住民課と総務企画課でチラシを作成しているところである。早ければ9月頃から配布できればと思っている。当然、受付においてもメリットを説明して行政組合への加入をお願いしたいと考えている。道路の案内板等については、荒穂神社に看板を設置したりと危険な箇所については個別に対応している。また、信号機に〇〇交差点との表示がないところもあるので、県道については土木事務所と話をしながら進めているところである。

(事務局等) 10月に入居予定の駅前のマンションだが、通常はマンションであれば組合に入らないことが多いが、基山町とまちづくり協定を締結して、このマンションについては新しく組合を作ってもらおうということ協定書の中に文言を入れている。このマンションは60戸部屋があるため、60世帯入るとなると組合1つだと大きいので2つに分けようかという話もあり、地元の区長を交えて協議をしたいと考えている。また、宅地を開発する場合は開発の業者に対して新しく行政組合を作ってもらおうとか戸数が多くない場合は〇〇組合に入ってもらおうように指導しているところである。

(事務局等) 高齢化の中で組合から脱退していくということについては、役員ができないので脱退したいという理由を聞いたことがあるので、地区の組合等と話し合いながら、組合によって体制は異なると思うが、若手でフォローしていく等の体制的な点をそれぞれ伺いながら、組合からの脱退をできるだけ無くしていくような形にしたいと考えている。

<プロジェクト⑩「オール基山で考えるみんなの住みたいまちづくりプロジェクト」>

- ・(酒井委員) 想定する事業③の施策の概要に「公園植栽や街路樹、その他地域内の公共用地内の植栽剪定や除草、清掃作業を町と町が支援する地域環境整備協力団体とが役割分担し、実施します。」とあるが、これはどのように把握しているのか。地域環境整備協力団体数の実績が0団体

となっているが。

(事務局等) たとえば、自分の田んぼの前に町道があって、他の草刈りに合わせて町道の法面の草も刈っていたり、農地に付随する水路の清掃・草刈り等の維持管理をしていたが、ただここ最近の町の変化に伴い、開発により農地が減ることで、その水路を利用する農業者も減り、その結果管理する人間も減ってきている。また、高齢で中々草刈り等も厳しくなってきた。そういった状況の中で、そもそも町有地なので町が管理するところではあるが、全てを町で管理するというのは現実的ではなく非常に厳しい部分もあるため、今後それらをどのように町や地域として管理をしていくのがよいのかといった議論をやっている。ただ昨年も数回議論を行ったが、今の段階ではこれといった方向性が見いだせていない状況である。今後も引き続き検討を進めたい。また、これに関して1つ動いている事例として、草刈りで使用する草刈り機の刃くらいは町の方から出せないかということで、アダプトプログラムで昨年度から草刈り刃の提供を始めている状況である。

(酒井委員) 町が支援する地域環境整備協力団体が具体的にどういったものを指しているのかは不明であるが、アダプトプログラムをやっている団体はあるのではないかと考えている。実績が0になっているので理由を教えてください。

(事務局等) K P Iとして設定している17という目標は17の区の自治会をイメージしている。たとえば区にお願いをして、地域の町有地や公園等を協働のまちづくり事業の一環として受け入れていただいている実績もある。ただ、その実績はこちらに掲載できるようなものではないと思ったため実績は0となっているが、今後そのようなことも反映させながら検討していく必要があると考えている。

○審議

基本目標④「安心と安全をベースにオール基山のまちづくり」の2プロジェクトは、総合戦略のK P I達成に有効であると評価。

【基本目標⑤】「基山力を活かした人材活用と人材育成のまちづくり」

○事務局から説明

○質疑応答等

<プロジェクト⑪「自然と歴史・文化・スポーツ分野での人材活用プロジェクト」>

>

なし

<プロジェクト⑫「まちの未来を担う人材育成プロジェクト」>

・(末吉委員) 英語検定の補助金申請者が減っているが、その背景を教えてください。

(事務局等) 令和2年度の補助金申請者数が少ない理由については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、英語検定試験そのものが開催されていなかったことがあげられる。今年度は、いまのところ試験が開催されているのでおおよそ目標に近い数値が出てきている。傾向としては、受験者は中学生が多く、英検3級程度60%取得を目標もあるので、この事業を行っているところである。

○審議

基本目標⑤「基山力を活かした人材活用と人材育成のまちづくり」の2プロジェクトは、総合戦略のKPI達成に有効であると評価。

【基本目標⑥】「誰もが活躍できるユニバーサルなまちづくり」

○事務局から説明

○質疑応答等

<プロジェクト⑬「みんな元気、健康寿命延伸プロジェクト」>
なし

<プロジェクト⑭「みんなの居場所と役割づくりプロジェクト」>

- ・(中富委員) 障がい者(児)相談支援件数が4,032件とあるが、基準値の2,500件に比べ数が多いと思うが要因や背景を教えてください。

(事務局等) 障がい者の方々からの相談支援については、鳥栖・三養基地区総合相談支援センターキャッチに業務委託という形で行っている。件数は4,032件となっているが、こちらは延べの相談件数となっており、同じ方から何度もメールや電話等で相談を受けていたりすることから多い実績となっている。ただ、障がいを持つ方が増えているのも現状で、特に障がいの疑いのある子どもの件数が基山町に限らず、周辺の市町でも増えている。

○審議

基本目標⑥「基山力を活かした人材活用と人材育成のまちづくり」の2プロジェクトは、総合戦略のKPI達成に有効であると評価。

(2) その他

特になし

～11時50分閉会～